

学生寄宿舍について②

【ご意見・ご要望】（投稿日：2018年1月29日）

先日の学生意見箱の「学生寄宿舍について」の回答を拝見しました。

「将来的な福利厚生の拡充を図る」ということで、その理念には賛同いたします。しかし、現在の方針では現実問題として、男子学生以上にこれから進学する女性学生や留学生に対してより大きな負担を強いることとなり、これは京都大学の掲げる京都大学の基本理念や男女共同参画に抵触する可能性があります。

理由は以下の通りです。

1. 吉田寮は熊野寮や女子寮に入れなかった経済的に困窮した女性学生の最後の砦として重要な役割がある。というのも、熊野寮は女性の入寮も可能であるが、基本一律4人一部屋で融通が利きにくく、女子部屋が少ないことから、制度上男性よりも女性が落ちやすい現実がある。一方、女子寮は入れる学生数がとても少ない。こうした現状の中で、女子寮だけでなく吉田寮まで入寮停止にすると、男性学生以上に女性学生の進学に負の影響を与えかねない。

2. 日本への留学を志す経済的に困窮した私費留学生にとっては、大学の質と同程度以上に、安価な学生寮は大学選択の上で重要である。これは日本と経済格差が大きいアジア諸国において特に顕著なようである（例えば中国の大学の留学担当において、IPSの出る前は、京都大学よりも吉田寮の方が有名だったそう）。京都大学は留学生寮を建てているようであるが、非常に高額であり、上述の私費留学生には利用は困難である。一方で、吉田寮は多くの留学生を在住しており、独り来日した留学生にとってはとても過ごしやすく、精神的な支えとなる場も提供している。以上により、吉田寮の入寮停止は、留学生の福利厚生を損ない、京都大学を志す留学生の進学に負の影響を与えかねない。

1.に関しては熊野と女子寮に落ちた女性学生友人らから、2.に関しては友人の留学生らから以前聴いた話です。実際、吉田寮がなかった場合、大学への通学が困難になった可能性が大きいそうです。

男女共同参画や国際交流促進を目指す本学としては、これから進学する女性学生や留学生により大きな負担を強いる「吉田寮の入寮停止」という方針は不適切であると考えられます。したがって、「吉田寮の入寮を継続する」、もしくは「女性学生や留学生（または吉田寮に入寮を希望する全学生）の不利になった部分を補填する制度を早急に定める」といった対応策が望まれます。

大学本部としては拾いにくい学生の生の声ですので、これまで方針に反映されてこなかったのかもしれませんが、建前としての制度や理念ではなく、現実問題として経済的に困窮した学生に寄り添った方針を検討していただければ幸いです。

御検討の程、よろしくお願い致します。

【回答】（回答日：2018年2月9日）

（学生担当理事・副学長 川添信介）

ご意見をありがとうございます。今回の「基本方針」による入寮募集停止措置が吉田寮居住者の安全確保のためであることを、ご理解ください。その上で、頂戴したご意見は本学学生の将来的な福利厚生について今後検討を進める上で参考とさせていただきます。